

# 福井県民の将来ビジョン(仮称)素案〔たたき台〕

頁

## 第1部 福井県民の将来ビジョン

### 1 ビジョンの性格と目標

- ◆ 県民、様々な団体、県・市町共通の行動指針 (ビジョンの性格)
- ◆ 「新しいふるさと」の創造 (ビジョンの目標)

1

### 2 福井県民の5つビジョン

- I 人が生きる
- II つながりを活かす
- III 成長を産み出す
- IV 環境を創る
- V 交流を広げる

2

### 3 県の役割と責任

- ◆ 「地方自立」の時代へ

3

## 第2部 ビジョン実現のための戦略とプロジェクト

| テーマ (5) | タイトル (11) | 実現のための主要戦略 (24) |  |
|---------|-----------|-----------------|--|
|---------|-----------|-----------------|--|

|     |          |   |                 |  |                |
|-----|----------|---|-----------------|--|----------------|
| I   | 人が生きる    | 1 | 「人づくり」<br>先進福井  | 「学力・体力・挑戦力」を伸ばす新たな福井型教育の推進<br>◆「福育」推進戦略<br>◆「地域教育」応援戦略<br>◆スポーツ健康戦略                    | 4<br>4<br>4    |
|     |          | 2 | 「県民皆活社会」<br>の創出 | 県民の意欲と行動力を最大限に活かす「県民皆活(かいかつ)社会」の実現<br>◆女性の活躍応援戦略<br>◆アクティブ・シニア戦略<br>◆「一人もう一役(躍)」社会創出戦略 | 5<br>5<br>5    |
| II  | つながりを活かす | 1 | つながりの<br>地域づくり  | 子育てから介護まで、家庭を応援する「地域のつながり」強化<br>◆みんなで応援子育て戦略<br>◆地域で生涯元気戦略<br>◆「笑い」と「楽しみ」のネットワークづくり戦略  | 6<br>6<br>6    |
|     |          | 2 | 安心の地域づくり        | 県民の力で築く「安全・安心日本一ふくい」<br>◆「安全・安心日本一」戦略<br>◆「災害に強いまちづくり」戦略<br>◆原子力の安全・安心戦略               | 7<br>7<br>7    |
| III | 成長を産み出す  | 1 | 産業新展開           | 新産業育成(イノベーション)と地場産業再生(リノベーション)による「産業新展開」<br>◆「これぞ福井」の技(わざ)進化戦略<br>◆新しい雇用づくり戦略          | 8<br>8         |
|     |          | 2 | アグリチャレンジ        | 果敢な挑戦により、農林水産業を「新成長産業」へ転換<br>◆チャレンジ農林水産業戦略   | 9              |
|     |          | 3 | アジア・ターゲット       | ネットワーク強化による「アジア共生成長戦略」の実現<br>◆アジアへの積極展開戦略  | 9              |
| IV  | 環境を創る    | 1 | 環境・景観を育む        | 皆で守り育てる美しく豊かなふくいの「環境・景観」<br>◆「グリーン・アクション」戦略<br>◆景観バリューアップ戦略                            | 10<br>10       |
|     |          | 2 | 環境先端の<br>基盤づくり  | クリーンエネルギー活用による最先端の「低炭素社会」の実現<br>◆低炭素都市実現戦略   | 11             |
| V   | 交流を広げる   | 1 | 「希望のまち<br>福井」創造 | 新たな絆・交流を生む「つながりのまち」の創造<br>◆「定住満足度日本一」実現戦略<br>◆「つながりのまち」創出戦略<br>◆ふくい文化の創造戦略             | 12<br>12<br>13 |
|     |          | 2 | 交流ネットワーク<br>拡大  | 新ネットワークを活用した「ふくいブランド」の発信と交流拡大<br>◆「ふくい周流」展開戦略<br>◆「新ネットワーク外交」戦略                        | 13<br>13       |

# 第1部

# 福井県民の将来ビジョン

## 1 ビジョンの性格と目標

### ◆ 県民、様々な団体・企業、県・市町共通の行動指針（ビジョンの性格）

○ 県だけでなく、県民、様々な団体・企業、市町が「思い」を共有し「行動」につなげていくための指針を作成

- ・ 将来ビジョンの策定に当たっては、これまでの長期計画のような「行政や組織の代表が土台をつくり」、そこに「県民が後から参加する」という枠組みを3つの点で改善してきました。第一に様々な複雑な社会・経済的課題が増える中、まず、各分野第一級の専門家のアドバイスを聞きました。第二に構想の段階から県民・県議会の意見を広く取り入れてきました。第三につくるだけではなく、次の7つの指針のもと、県民と様々な団体・企業、行政が協力してビジョンを実現することを重視していきます。

#### ①人口減少・高齢化社会への指針

- ・ 人口減少・高齢化社会においては、県民が互いに助け合い、協力し合わなければならない場面が増えてきます。それは同時に多くの県民の活躍の場が増えることでもあります。若者から高齢者まで県民一人ひとりが、職場や家庭から、地域活動やボランティアなどへと活躍の幅を広げることによって、新しい形の地域活力をつくり出します。

#### ②価値多様化社会への指針

- ・ 個人の価値観、ライフスタイルが尊重される個人主義の浸透に伴い、県民一人ひとりの思いや行動が多様化しています。それぞれの価値や考えを十分尊重しながら、互いの思いや期待の方向性をそろえて、一歩ずつ地域づくりを前進させていきます。

#### ③グローバル社会への指針

- ・ グローバル化が進むに伴って、新しい発展の可能性が生まれています。一方で、県民の日常生活にまで経済競争が浸透し、福井の良き伝統や文化が失われつつあります。地域に受け継がれてきた価値を大切にしながら、幅広い分野で活躍できる人材や企業を育てていきます。

#### ④環境保全への指針

- ・ 経済発展の一方で、私たちの生活を支え、安らぎを与えてくれる自然環境や生物多様性が地球規模で損なわれています。経済発展と環境保全を両立させ、地域・国内の自然環境をみんなで守り育てるとともに、世界に貢献する行動を始める時期に来ています。

#### ⑤厳しい財政状況への対応指針

- ・ 国や県、市町の財政が一段と厳しさを増す時代でもあります。これまでの行政主導による地域活性化を乗り越え、「県民主役」の新しい道を切り拓いていきます。

#### ⑥新しい県民資質への指針

- ・ 福井県民の気質は「粘り強い」「勤勉でまじめ」と評される一方、「外に対して閉鎖的」「視点が短期的」と言われています。「長期的な視点や目標を持って、外に開き積極的に働きかける」という新しい時代にふさわしい気質を育みます。

#### ⑦行政活動の指針

- ・ 県や市町などの地方政府は、これまで住民から一步離れたところで政策や事業をつくる存在でした。社会・経済的な課題が複雑化し、住民ニーズがますます多様になる今日、これからの県や市町は、従来の行政の観念を超えて、住民の日常生活のパートナーの役割を担うことが必要になります。そのため、これまで以上に住民に開かれ、信頼される存在となるよう努めていきます。

### ◆ 「新しいふるさと」の創造（ビジョンの目標）

○ 「新しいふるさと」を育てる基本戦略

- ・ 福井県は、子どもたちの優れた学力や体力、健康長寿、中小企業の活力や女性の働きやすさ、自然環境のよさ、豊かな経済基盤など、全国有数の暮らしやすい県の一つです。これらは過去、そして現在の県民の資質と努力の結果であり、将来に引き継いでいくべきものです。
- ・ このような福井県の豊かさは、関西圏をはじめとする大都市圏から適度な距離にある地理的条件にも一因があります。福井県は、関西圏、名古屋圏に近いですが、大都市の諸課題に巻き込まれるほど近くはありません。また、県を離れて大都市に移り住むほど遠くでもありません。3,000人の県外大学進学者のうち、2,000人が戻らないという状況は福井県の大きな課題ではありますが、全体としてみると人口減少率は決して大きくありません。
- ・ このような地理的条件は、人口の移動率（転入、転出）が全国45位であるという事実にも現われています。福井県は全国の中でも、よくまとまり、比較的高い独立性を維持しながら豊かさを実現できる県です。
- ・ 社会全体の経済主義化や、個人主義の浸透により、人間関係が希薄化しています。その中で人々がつながりを持って協力し、地域の課題を解決する場所を「ふるさと」と呼ぶとすれば、福井県は最も「ふるさと」にふさわしい条件を備えた県といえます。
- ・ 日々生まれる新しい課題に対応するこれからのふるさとは、外に開かれ、新しい活力を取り入れることが欠かせません。優れた基礎条件を基に、開かれた新しいネットワークをつくり上げることを目指します。そのことを通して、様々な分野で成果を挙げ続け、全国に「新しいふるさと」のモデルを示すことが、福井県の役割（使命）です。
- ・ このような役割を果たすため、行動を起こし続けることが、同時に将来への希望につながります。ビジョンが、県民・団体・行政の行動の拠り所となることを目指します。

## 2 福井県民の5つのビジョン

### I 人が生きる

○ 県民一人ひとりの能力、行動力が最大限に発揮できる「県民皆活（かいかつ）社会」の基盤づくりを促進

- ・ 福井県は「若者や女性の就業率の高さ」や高齢者の「健康長寿」や「働く割合の高さ」など、人々の社会との関わり具合は全国トップクラスです。こうした福井県の特性を地域の活力に結びつける仕組みづくりを推進します。
- ・ 福井県の子どもたちの優れた学力・体力を更に充実させるため、地域や企業、大学と学校をつなぎ（オープンネットワーク）、教育の質を向上させるとともに、最先端の「サイエンス教育」「国際教育」等を推進します。

### II つながりを活かす

○ 県民一人ひとりが「もう一役を買って出る」ネットワークづくりを推進し、子育てや高齢者等の福祉、地域の安全・安心を支える新しい仕組みを創造

- ・ 三世同居の家族の生活スタイルが減少し、単身世帯、高齢者世帯が将来的に増加します。地域コミュニティにおける「新しいつながり」をつくって、家族の役割を補い、家族生活を応援するための新しい仕組みづくりを推進します。
- ・ 地域の安全・安心は、人と人との絆の中から生まれます。地域のつながりを強化することによって、安全・安心な地域社会の基礎づくりを推進します。

### III 成長を産み出す

○ 技術革新と人材育成、多様なニーズに応える商品開発、東アジアなど成長市場への販売力強化によって、福井県経済の好循環を創出

- ・ 福井県の地域資源、独自技術などの強みや特色を活かし、新しいビジネスや多様なニーズに応える商品開発を行い、「実は福井の技」をさらに極めます。
- ・ 食を提供する農林水産業への国民的関心が高まっています。こうした環境変化を土台に、生産者と消費者との結びつきを強め、付加価値を高めながら農林水産業の新しい活力を創出します。
- ・ 経済のグローバル化が進む中で、アジア市場が急成長しています。アジアを主要ターゲットに、福井県の製品、農林水産物を売り込み、外需を積極的に取り込みます。

### IV 環境を創る

○ 県民生活の土台となる豊かな自然環境を守り育て、地域の景観やたたずまいを維持・改善することによって、潤いのある生活環境を創出

- ・ 農業や工業などの産業活動や日々の社会生活等の人間の活動は、自然環境との循環の中で行われてきました。今、そのバランスが失われ、環境への負荷は生活公害からダイオキシンなどの有害物質へ、更に地球温暖化へと大規模になると同時に、見えにくくなっています。
  - ・ 自然と人間活動の循環を取り戻すため、3つの「E」（経済発展=Economy、資源・エネルギー・食糧の確保=Energy、地球環境の保全=Environment）を調和させる「グリーン・アクション」を県民とともに推進します。
  - ・ これからの10年、高度成長期に集中的に整備された橋や堤防、建築物など社会資本が更新期を迎えます。これを契機に、歴史的、文化的な観点も取り入れて県民とともに新しい景観をつくり出す「景観創造型まちづくり」を推進します。
- 日本の環境技術は、これからの時代に世界に貢献できる最大の分野です。福井県は原子力エネルギーを供給する環境貢献地域として、原子力を地域の技術や産業に活かすという視点から生活レベルにまで範囲を広げ、低炭素の環境都市づくりを推進します。

### V 交流を広げる

○ 県外に向けた働きかけを強め、新しいネットワークを作ることによって、県民の元気と地域の活気を創出

- ・ 道路や鉄道、港湾などの社会基盤は、県民の県外、海外への気持ちや活動に形を与え、福井県を外に向けて開き、外の活力を取り込む重要なツールです。
- ・ 舞鶴若狭自動車道（小浜西～敦賀間の全線開通）、中部縦貫自動車道（福井北～大野間の開通）など、高速交通ネットワークがこの10年以内に飛躍的に拡大します。こうしたネットワークの完成に備え、福井県への帰住・定住や観光、ビジネスを活発化させるプロジェクトを推進します。
- ・ 福井県の玄関口である県都については、交通ネットワークのアクセスポイント、県民の交流の中心エリアとして整備を促進します。



## 3 県の役割と責任

### ◆ 「地方自立」の時代へ

#### ○ 地方政府（県・市町）と住民の関係を再構築

- ・生活が豊かになり、人々の考え方に多様性が生まれるとともに、住民生活の課題は複雑・高度になっています。一方、行政活動を支える財政はますます厳しさを増しています。
- ・このような変化の下で、行政と住民の関係は大きく変わりつつあります。行政ニーズを中心に、行政と住民をサービスの提供者と消費者のように考えることは、適切ではなく、財政的にも困難です。
- ・行政は今、住民の対等なパートナーとして、住民と協力しながら地域の課題に対応することが求められています。この課題の範囲は従来の行政の枠を超えて、子育てや結婚問題、民間と協力して進める営業活動など、多岐に渡っています。
- ・行政が住民のパートナーとなって活動するためには、行政が住民に信頼されることが不可欠です。これまで積み重ねてきた情報公開や個人情報保護、財政制度改革などをさらに推し進めていかなければなりません。
- ・市町は身近な自治の担い手として、これまで以上に住民の創意と工夫を取り入れ、住民と協働して地域の課題を解決する役割を担います。市町村合併により規模が大きくなった現在、その役割をこれまで以上に認識しなければなりません。
- ・県は、大きく分けると3つの役割があります。
  - ①市町の活動を支援し、住民や市町の活動を引き出す仕組みを作ること
  - ②集権的になりがちな国の政策や、見せかけの地方分権改革などを監視し、市町の行政と県民の自発的な活動を守る役割を担うこと
  - ③地方の自立に不可欠の「自治の精神」を涵養するための仕組みや運動を進めること
- ・県民と県・市町が一緒になって新しい時代を切り拓いていくための県民生活起点の「総力自治」を推進します。

#### ○ 都市と地方の新しい関係をつくり上げる

- ・大都市は、わが国の効率的な経済成長を支える重要な拠点でした。それは、地方が人材、資金、資源を継続的に供給する、経済、政治、行政の様々な制度に支えられた一つの総合的な成長の仕組みです。
- ・人口減少・高齢化、環境問題などが大きな課題となる中で、都市と地方の仕組みを見直さなければなりません。
- ・まず、都市と地方の一方的な需要・供給関係を見直すべきです。地方から都市部へ進学する若者や、都市に集まる企業を地方に戻すサイクルをつくるため、税制や社会制度の改善など、国全体で進めるべきことが多くあります。
- ・地方と地方の関係も積極的に変えていかなければなりません。常に大都市（東京）を経由した二次的な結びつきを超えて、地方と地方が直接つながる新しいネットワークを広げなければなりません。
- ・このような考えに基づくと、福井県と北陸や関西との新しい関係も見えてきます。
- ・すでに述べたように、福井県は独立性を維持しながら、豊かさを実現できる恵まれた県です。経済的にも、社会的にも優れたパフォーマンスを示しています、
- ・道州制や大きな組織に属することを目指すのではなく、都市、様々な地方との多様なネットワークをつくり、県民とともに活力を向上させていく方向を目指すべきです。
- ・福井から新しい運動と仕組みを広げ、都市、地方をともに活性化していきます。

1 人が活きる

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| <p>1-1<br/>「人づくり」<br/>先進福井</p> | <p>◆「学力・体力・挑戦力」を伸ばす新たな福井型教育の推進</p> <p>少子高齢化、グローバル化が進む中で、未来社会を担う子どもたちに、時代を生き抜く力を養うことが求められています。今、日本の基礎科学、技術開発力、産業競争力の低下が懸念されています。我が国は、すでに先進国に追いついて、自らが世界の先頭に立ち、課題解決に挑戦しなければならない位置にあるにもかかわらず、それが十分ではありません。その基本となる「人づくり」について、「教育」への期待には大きなものがあります。</p> <p>日本の教育を支える地方から、教育の質を上げていかなければなりません。幸いまだ日本の基礎学力はしっかりしており、中でも福井県の子どもの学力・体力は全国トップクラスです。学校の努力に加え、教育の土台である家庭や地域が安定していることがその背景にあります。</p> <p>このような条件の下で、福井の教育は、今後10年で、学校という枠にとどまらず、学校間や社会との交流を拡充し、ふるさと教育やボランティア教育など社会性や道徳性、自立性を身につける教育へと質を上げていきます。また基礎学力の充実に加えて、一人ひとりの可能性を伸ばすため、トップレベルの国際教育、サイエンス教育等の機会を拡大します。</p> <p>全国トップクラスの「学力」、「体力」に加え、さまざまな課題に自らチャレンジする「挑戦力」を鍛え、地域課題の解決に向けて先頭に立って活躍する人材や、今後のグローバル社会をたくましくリードする人材を育てる「新たな福井型教育」により、「人づくり先進県ふくい」を実現します。</p> |
|--------------------------------|---|

| 戦略                   | 戦略の内容   | 主要プロジェクト  |
|----------------------|---|---|
| 1<br>◆「福育」<br>推進戦略   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県の小中学生の学力・体力は、全国トップクラス。今の学力・体力の水準を維持・向上するだけでなく、子どもたちが将来社会の中で活躍できるよう、意欲を高め、社会性、規範意識を含めた総合的な力を伸ばす教育をさらに充実・強化する必要</li> <li>○ 本県の「少人数教育」は学力向上面で大きな成果を上げてきた。しかし、今後は、少子化がさらに進展し、学級規模が縮小。互いに協力し合い、切磋琢磨する環境が失われていくことに注意する必要</li> <li>○ これからは、人数の視点を超えて、学校単位の教育活動の枠を踏み出し、学校同士、学校と地域社会、学校と大学などとの新しいネットワークを拡大する一歩先へ行く構想が必要。学校教育の水準をさらに高める「オープンネットワーク教育」を積極的に推進</li> <li>○ これからのグローバル社会をリードしていくために必要な「国際教育」「サイエンス教育」などを拡充し、自発的な学習意欲を高め、「挑戦力」を向上</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「オープンネットワーク教育」による「次世代人財」育成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力・体力の基礎を育てる「幼児教育」を推進</li> <li>・ ふるさと福井に誇りを持つ「ふるさと教育」を拡充</li> <li>・ 様々な分野で活躍する社会人による特別授業など、将来への夢・希望を育む「夢教育」を推進</li> <li>・ C I E (カパニー・イン・エデュケーション：企業の情報を使った教育) や大学との連携など多様な教育の推進</li> <li>・ 本物の文化芸術体験や文化財を活用した「文化教育」</li> <li>・ 農林漁業体験や伝承料理等を通じた「食育」の拡充</li> <li>・ 県境を超えた他県の子供たちとの交流</li> </ul> </li> <li>○ 「挑戦力」を鍛え、グローバル時代をリードする先進の「国際教育」「サイエンス教育」                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全高校における海外ホームステイ実施など「国際教育」を充実</li> <li>・ 世界に通じる理数の創造力・実践力を伸ばす「サイエンス教育」を拡充</li> <li>・ 日本や東アジアの歴史・文化を古典や「白川文字学」から学び、国際社会で通用する教養を身につける「国語・古典教育」</li> </ul> </li> </ul> |
| 2<br>◆「地域教育」<br>応援戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育は、子どもたち一人ひとりの一生に関わる重要なものであるが、家庭や地域の教育力の低下により、社会性を育む役割までが「学校任せ」になっている</li> <li>○ 次代を担う子どもたちが社会の一員として成長できるよう、世代を超えた様々な人々との交流や伝統・文化や自然との触れ合いなど、多様な体験ができる環境の整備が必要</li> <li>○ 人と人とのつながりが強い福井の地域特性を生かし、家庭、地域が子どもたち一人ひとりと関わりを持ちながら助言・サポートしていく新しい教育風土を創造</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の歴史・伝統をつなぎ、社会性を育む「地域教育」を全県展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の歴史・伝統・文化などを語り継ぐ「語り部」を発掘・育成し、公民館単位で子どもたちへの体験講座等を実施</li> <li>・ 伝統芸能や地域の祭りについて、高齢者から子どもへの伝承活動の促進</li> </ul> </li> <li>○ 多様な体験を通じて「地域三世代交流」を促進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「遊びの達人」を養成し、外遊びを推奨</li> <li>・ 学校の部活動などを通じた地域のボランティア活動の促進</li> <li>・ 農林漁業体験や食イベントなど共同作業による交流の機会の拡大</li> <li>・ スポーツを通じた世代間交流の促進</li> </ul> </li> </ul>  |
| 3<br>◆スポーツ<br>健康戦略   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井の子供たちは体力日本一だが、運動する子と運動しない子に二極化</li> <li>○ 平成30年に、第73回国民体育大会を福井で開催。子どもたちがトップアスリートになる夢と希望を持ち、広く県民がスポーツと関わりを持つようになるきっかけに</li> <li>○ スポーツを通じ、地域や世代間の交流が促進され、連帯感やふるさとを思う気持ちの高まりが、人づくり、地域づくりに大きく寄与することが期待</li> <li>○ 子どもから高齢者までの福井の元気・健康をさらに強め、県民一人ひとりの健康の増進やスポーツ振興につながる「スポーツ健康」先進県を目指す</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもたちの体力日本一を維持向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体力テストの継続実施</li> <li>・ 拠点校方式の運動部活動の実施</li> <li>・ スポーツ少年団活動の活性化</li> <li>・ スポーツ指導者の育成と派遣システムの構築</li> </ul> </li> <li>○ 「1県民1スポーツ」の展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民皆スポーツキャンペーンの実施</li> <li>・ 総合型地域スポーツクラブの設立・育成</li> <li>・ 平成30年国体に向け、本県発祥のマレットゴルフ、ソフトバレーをはじめとするニュースポーツの普及促進</li> <li>・ 県民スポーツ祭の開催種目を国体デモンストラーションスポーツとして実施することにより、県民のスポーツ意識の高揚と国体への県民参加を促進</li> </ul> </li> </ul>   |



1-2

「県民皆活社会」の創造

◆県民の意欲と行動力を最大限に活かす「県民皆活（かいかつ）社会」の実現

社会構造の変化に伴って、人々の心に変化が現れています。日本が高齢社会に移行した1980年代終わり頃から、社会のために役に立ちたいと考える人々の割合が急激に増え始め、1985年には40%半ばであった割合が2009年には70%に増加しています。県民アンケートでも地域活動への参加を望む人の割合が半数を超えています。このような人々の気持ちを活かし、若者からお年寄りまで、実際の活動へつなげる「一人もう一役(躍)」の仕組みづくりを進めます。

少子高齢化が進む中、高齢者(65歳以上)の割合が増えることが社会的課題とされています。しかし、65歳以上を高齢者と捉える考え方は50年以上前、1956年に国連の報告書の中で示されたものです。現在、福井の65歳以上はとても元気であり、要介護認定を受けていない方々の割合は65歳から74歳で96.8%、75歳以上で73.9%と全国トップレベルです。これら「アクティブ・シニア」の方々の元気や地域への思いをつないで、地域の活力増に活かしていきます。障がいのある方にも同じ視点に立って活躍の場を増やすことは、社会の活力につながります。

また、福井の生涯未婚率は全国平均より低いものの、1980年代の3%台から2005年には15%前後と急増しています。結婚を希望する人たちの「縁結び」を応援します。また、共働き日本一の「ふくい女性」の負担を軽減し、家族の時間や女性のゆとりを創り、家族の絆を強めるとともに、職場や地域で女性が活躍できる環境をつくりまします。

| 戦略                      | 戦略の内容  | 主要プロジェクト   |
|-------------------------|--|--|
| 4<br>◆女性の活躍応援戦略         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井の女性は、日本一働き者といわれるが、働く女性の多くは、仕事も家庭も負担し、自分のことは後回しに。女性の余暇時間は5.46時間で男性の6.18時間、全国平均の6.15時間と比較してかなり短い</li> <li>○ 男性の育児・家事への積極参加を促進し、家事や育児など女性に偏りがちの家庭での役目を軽減。日々の生活にゆとりを生み出すことにより、女性が職場や地域等でいきいきと活躍できる社会を実現</li> <li>○ 晩婚化、未婚化が進む中で、福井県においても少子化傾向が危惧。高齢化の進展とあいまって、単身世帯の増加や地域活力の減退が懸念。結婚を希望する人たちが、良いパートナーと巡りあい、新しい家庭を築けるよう応援</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○女性の余暇時間を「1時間」増加させる「プラス1運動」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の家事、育児参加を促進するカジメン・イクメン運動を展開</li> <li>・男性の育児休暇取得促進などを企業へ働きかけ</li> <li>・家事や育児などホームマネジメント分野のビジネス支援</li> </ul> </li> <li>○仕事や地域で頑張る「女性活躍」応援社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活躍女性のネットワーク作りや女性の起業を支援し、働く場での女性の活躍を応援</li> <li>・自治会活動等への参加を促進し、地域での活躍の場を拡大</li> </ul> </li> <li>○結婚を希望する人の夢がかなう「縁結び先進県ふくい」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高校生の意識啓発など、若者に結婚を考える機会を提供</li> <li>・ボランティア活動などの自然な男女の出会いの場を創出</li> <li>・地域の中核的な人が応援するなど縁結び活動の輪を拡大</li> </ul> </li> </ul>   |
| 5<br>◆アクティブ・シニア戦略       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内の65歳以上の人口は全人口の約25%、2020年の推計では65歳以上の人口は全人口の約31%に</li> <li>○ 65歳以上を「高齢者」と捉える考え方は50年以上前の考え方であり、これを75歳以上と捉え直すと、2020年の割合は約16%</li> <li>○ これからは、元気で現役の「アクティブ・シニア」の方々が地域の人々をつなぎ、一人もう一役(躍)する時代に</li> <li>○アクティブ・シニアの活躍により、地域の活力は大きくなり、「新しいふるさと」の基盤づくりが進展。同時に、活躍するシニアの元気も増加させ、健康長寿福井を実現</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○元気で現役の「アクティブ・シニア」を応援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・ビジネスなどのNPOづくりや起業を目指すシニアを支援</li> <li>・農林水産業への就業を希望するシニアに対し、雇用情報等を発信するとともに、技術習得を支援</li> <li>・シニアの持つ卓越した技能を伝承するため、熟達シニア登録制度を設け、中小企業の求めに応じて派遣</li> <li>・地域の元気なシニアが、ケアの必要な高齢者を支援(買物、給食、見守り)する仕組みづくり</li> </ul> </li> <li>○第2の社会デビュー支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業中の方々が退職後に、地域活動やボランティアを通じて生きがいを見つけてもらえるよう、情報提供・人材登録など、双方のマッチングを支援する仕組みづくり</li> </ul> </li> </ul>   |
| 6<br>◆「一人もう一役(躍)」社会創出戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井は、ボランティア活動に参加する人の割合が高く、河川の美化や子どもの見守り活動を地域総ぐるみで行うなど、公の活動に参加する気運も高い。また、障がいのある人の雇用率も日本一高いなど、人々が幅広く活動できる風土がある</li> <li>○ 福井に残るこうした「つながり」を活かし、積極的に社会活動に参加する人を増やすことが、失われつつある助け合いの機能を補うことになる</li> <li>○ 自分の本業や学業だけでなく、地域での役割も担う活動は、「誰かのためになっている」という喜びをもたらす、県民の精神的な充足感を高めることにつながる</li> <li>○ 若者の感性や行動力を地域活動に活かすことが重要。また、企業や団体も本来、地域社会の一員。企業活動だけではなく地域での役割を担う活動を促進</li> <li>○ 全国に先駆け、県民一人ひとりがもう一役(躍)を担う『一人もう一役(躍)社会』を実現</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「一人もう一役(躍)」活動支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動サイトやカードを作成し、ボランティアニーズをマッチング、活動実績を評価</li> <li>・「一人もう一枚の名刺」運動を展開</li> <li>・障がいのある人の雇用の場を増やし、賃金も日本一を実現</li> <li>・企業や学校等に協力を求め、活動しやすい仕組みづくり</li> <li>・地域課題の解決に資する自主的な活動提案を受け、地域ニーズとマッチング、行政との連携を強化</li> </ul> </li> <li>○「若者パワー」で地域の元気を創出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア休暇の導入など、若者が働きながら地域活動を行える環境づくり</li> <li>・県内外の学生との共動による地域おこし活動を支援</li> </ul> </li> <li>○企業・団体の「地域活動」「一社もう一役(躍)」を促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や団体による環境・文化・教育など「地域活動」を促進</li> <li>・企業等の「地域活動」を促すための情報提供や、受け皿づくり、活動を評価・支援するシステムづくり</li> </ul> </li> </ul> |

# II つながいを活かす

**II-1 つながいの地域づくり**

**◆子育てから介護まで、家庭を応援する「地域のつながり」強化**

今、地域の伝統的祭りの復活や、隣人祭りなど、人々のつながりを求め、強化させる動きが広まっています。これは単に昔に戻る動きではなく、高齢化の進展と、家族形態の変化に起因するものと考えられます。

高齢化とともに、人々は精神的、肉体的に社会の助けが必要となります。これまでの若者から壮年世代中心の独立型、個人中心の社会から、人々が助け合う寄り合い型へ転換を迫られています。

もう一つの要因は、高齢化とともに進む核家族化を中心とした家族形態の変化です。三世同居が多く、家族の絆が強いと言われていた福井でも、変化は確実に起こっています。三世同居率は1985年の30%から2005年には20%に減少しています。

一方で、福井県の三世同居率(車で15分圏内)は4割を超え、個人の自立と家族の助け合いがバランスよく残っています。このような条件を「地域のつながり」に結び付け、「出生から終生」まで生き活きと暮らせる社会を実現するため、地域の力で家庭を応援する仕組みづくりを積極的に進めていきます。

| 戦略                           | 戦略の内容   | 主要プロジェクト  |
|------------------------------|---|---|
| 7<br>◆みんなで応援子育て戦略            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県では、合計特殊出生率が5年連続上昇。これまで「ふくい3人っ子応援プロジェクト」などの先進的施策を行ってきたことが背景に</li> <li>○ 共働き世帯の割合が全国1位の本県においては、子育てしやすい職場環境をつくるのが重要。父親も育児休暇を取得しやすい制度や県民文化をつくり、企業と家族がともに子育てを応援することが重要</li> <li>○ 全国的に児童虐待が増加。未然防止と早期発見・早期対応のため、地域のネットワークづくりや専門機関の相談・支援体制を強化</li> <li>○ 障がいのある子に対する身近な地域での質の高い療育、親がいないなど、養護が必要な子どもに対する適切なサービスの充実も重要。専門スタッフや地域のボランティア等が協力して支援</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域総ぐるみ」で子育て・子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域住民による「子育て応援塾」の設置</li> <li>・ 高齢者等が「社会的祖母力・祖父力」を発揮し、地域の「孫育て」に参加できるよう応援</li> <li>・ 子どもが病気にかかった時の助け合い（病児デイケア、病児送迎、一時預かり等）の拡充</li> <li>・ 放課後子どもクラブの拡充</li> <li>・ キッズデザイン「子どものまち」づくりの全県展開</li> </ul> </li> <li>○ 「子育て応援ナンバーワン」の職場環境を実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業経営者と従業員がともに進めるワークライフバランス</li> <li>・ 男性の育児休業取得を促進</li> <li>・ 家族時間を伸ばす県民運動の推進</li> </ul> </li> <li>○ 要支援・要保護児童の応援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもを守り育てる地域ネットワークづくり</li> <li>・ 児童虐待の未然防止、早期発見・早期対応</li> <li>・ 障がいのある子ども、養護を必要とする子どもが、質の高い療育やケアを受けられるよう、各種サービスやスタッフを充実</li> </ul> </li> </ul> |
| 8<br>◆地域で生涯元気戦略              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本県は、全国トップクラスの長寿県であるとともに、「元気生活率（高齢者の中で要介護認定を受けていない方の割合）」も全国上位、元気な高齢者が多い</li> <li>○ 一方、スポーツの年間行動者率は男女とも全国平均を下回り、県民のスポーツ・運動習慣を高めることが課題</li> <li>○ 日頃からの健康づくりや介護予防の活動を促進して「元気生活率日本一」を目指す</li> <li>○ 医療やケアが必要になった場合のセーフティネットづくりも必要。「家族など周りの者への負担」や「病状急変時の不安」を軽減し、希望する人が住み慣れた地域・自宅で過ごせるサービスを提供する体制を整備</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者の「元気生活率日本一」実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふくい元気体操」のプログラム化、普及</li> <li>・ ジェロントロジーを活用し、地域特性に応じた健康づくり</li> <li>・ 身近に受診できる個別検診推進による受診率のアップ</li> <li>・ フィットネスクラブ等に介護予防トレーニングコースを開設</li> <li>・ 「高齢者体力検定日本一」を目指す県民運動の実施</li> <li>・ 市民農園を整備し、高齢者等が楽しみながら野菜づくり</li> </ul> </li> <li>○ 地域で終生暮らせる「エイジング・イン・プレイス」社会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームケアを行える医師（主治医・副主治医）の登録、患者に最適な医療・介護サービスを調整するコーディネーターの配置</li> <li>・ 多職種のスタッフや地域住民による在宅医療・介護のネットワークづくり</li> <li>・ 在宅医療や介護に関する総合相談窓口の設置</li> <li>・ 高齢者の移手段（モビリティ）の確保</li> </ul> </li> </ul>  |
| 9<br>◆「笑い」と「楽しみ」のネットワークづくり戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県は、全国的に見ると隣近所との付き合いが多いが、自治会等への参加率の低下やボランティア活動の減少等、地域とのつながりが希薄化していく傾向</li> <li>○ 高齢化が進み、高齢者の単身世帯も今後さらに増加。地域とのつながりを維持し、安心して生活できる環境がますます重要</li> <li>○ 高齢者も子どもも歩いて通える新たな拠点（集いの場）をつくり、誰もが「楽しい」・「安心」・「多様」な地域でのつながりを実感できる場とする地域コミュニティ活動を推進</li> <li>○ 農村地域においては、農作業の協力等を通じた都市部住民との交流など、「外とつながる」新たな地域コミュニティを創造</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域コミュニティ再生運動」の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館等と連携した「地域コミュニティサロン」を設置し、地域活動の拠点に</li> <li>・ 地域で必要となる作業、ボランティア、趣味活動等の情報収集・提供機能を強化</li> <li>・ 高齢者と小学生等との世代間交流促進</li> <li>・ 小学校PTA等と地域コミュニティ（自治会等）が連携し、子ども見守り活動を推進</li> </ul> </li> <li>○ 中山間地域と都市部との新たなコミュニティの創造 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふるさと農園（コミュニティ型協働農園）を整備し、都市部住民が週末農作業を通じ、地元と交流</li> <li>・ 空き家や廃校などを活用した地域コミュニティの拠点づくり</li> </ul> </li> </ul>   |



|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <b>II-2</b><br><b>安心の<br/>地域づくり</b> | <p><b>◆県民の力で築く「安全・安心日本一ふくい」</b></p> <p>地域で暮らしていく上で、最も大切なのは、犯罪や災害に強い地域を作ることです。これは決して行政のみによってなしうるのではなく、地域住民とのつながりを強化することで実現されます。</p> <p>特に女性や子ども、高齢者や障害者など、犯罪や災害に対して弱者である方々に対して、行政とともに、住民が見守りや防災活動に参加することで、安全・安心を確保していきます。</p> <p>原子力については、原子力発電所の安全対策に万全を期し、県民の安全・安心と信頼を最優先に確保します。</p> |
|-------------------------------------|---|

| 戦略                    | 戦略の内容  | 主要プロジェクト  |
|-----------------------|--|---|
| 10<br>◆「安全・安心日本一」戦略   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県の刑法犯認知件数は、02年をピークに09年まで7年連続で減少、検挙率も高い。全国と比較した本県の治安情勢について、96%の県民が「全国平均以上」と感じているなど、概ね良好な状況</li> <li>○ 一方で、全国と比べ施錠率が低いなど防犯意識が薄いことや、飲酒運転による人身事故も増加傾向にあるなどの課題も</li> <li>○ 特に、高齢者が死に至る交通事故の比率が高く、こうした事故の減少に努めていくこと、また、重大な犯罪に発展するおそれがある子どもや女性に対する声かけ・つきまとい事案には、地域や保護者等と連携して、引き続き見守り活動等を継続させていく必要</li> <li>○ 県民総ぐるみで「犯罪が起きにくい社会」を構築し、子どもや女性、高齢者が安心して暮らせる「安全・安心日本一」の実現を目指す</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域のきずなによる女性・子ども見守り作戦」の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域の子どもはみんなの宝」子どもを持つ家庭や学校関係者に加え、就学年齢の子どもがいない家庭や元気な高齢者および企業など地域全体の協力で見守り活動を推進</li> <li>・防犯活動団体による女性の帰宅時間パトロールの強化</li> <li>・防犯等活動リーダーおよび後継者の養成や、防犯活動への支援により、防犯活動団体を維持・形成</li> </ul> </li> <li>○時代の変化に応じた捜査態勢の確立と犯罪抑止対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速・的確な初動捜査による犯人の早期検挙</li> <li>・科学捜査の高度化と捜査官の育成</li> <li>・犯罪の発生実態に応じ、地域、学校、行政、企業や関連団体などとのネットワークの整備</li> </ul> </li> <li>○交通事故・交通法規違反を減らす「スマートドライブ」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通法規の遵守や、3S（スロー・シグナル・シャイン）運動を徹底</li> </ul> </li> </ul> |
| 11<br>◆「災害に強いまちづくり」戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然災害に備え、普段から各自が防災のための準備と心構えを持つと同時に、災害が発生した場合には、消防団をはじめとした住民の自主的な活動により、被害を最小限に食い止めることが重要</li> <li>○ 県内の消防団員数（人口当たり的人数）は、全国33位。町内会、自治会等で住民が自主的に組織する自主防災組織については、組織率77.7%と、全国平均並み</li> <li>○ 消防団も自主防災組織も、住民の方々が「もう一役」買って出ることによって広がるコミュニティの安心づくり活動であり、これを強め、また、高齢者の単身世帯や障害を持つ方など災害弱者を地域で守る体制づくりが急務</li> <li>○ 行政においても、科学技術の発達に応じて、防災情報の住民への伝達や、災害への対応能力を常に高めていくとともに、災害に強い社会インフラの整備を推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域防災力の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護や重機操作等の専門的知識・技能を活かした機能別消防団の設置</li> <li>・高齢者宅への防火訪問など女性の特性を活かした消防団員の配置を拡充</li> <li>・災害経験、教訓の伝承。地域住民による防災マップ作り。地域内企業、消防団等との連携の確保</li> <li>・障害のある方、一人暮らしの高齢者、乳幼児など一人ひとりの要援護者に対して、複数の避難支援者を定めるなど、具体的な避難支援計画を充実</li> <li>・内水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップの活用促進</li> </ul> </li> <li>○災害に強い社会インフラ <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急輸送道路や生命線道路など、生命や暮らしを守る道路の整備。道路防災、防雪対策の促進</li> <li>・洪水対策として上流部でダム整備（足羽川ダム等）、中・下流部で河川整備を促進。内水氾濫対策として雨水幹線の整備促進</li> <li>・災害時要援護者にも配慮した効率的な施設整備の促進</li> </ul> </li> </ul>                            |
| 12<br>◆原子力の安全・安心戦略    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原子力発電所については、15基体制を堅持し、県民の安全・安心と信頼の確保を最優先に</li> <li>○ 高経年化対策として、運転開始後40年を迎えるプラントについて、今後の運転方針への適切な対応が必要</li> <li>○ 「もんじゅ」の成果を反映し、高速増殖炉サイクルの技術開発を進めるためには、安全運転の実績を積み重ねることが必要</li> <li>○ 原子力行政を取り巻く課題に対して、常に県民の立場に立ち、「安全の確保」「住民の理解と同意」「地域の恒久的福祉の実現」の原子力三原則に則り、慎重に対処</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○原子力発電所の安全・安定運転の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルの発生防止や再発防止対策を徹底</li> <li>・平常時の立入調査による労働安全対策を醸成</li> <li>・発電所内で貯蔵されている使用済燃料の適切な搬出・管理を事業者に要請</li> <li>・プルサーマル計画における厳正な確認</li> <li>・迅速かつ適切な情報公開の徹底</li> </ul> </li> <li>○高経年化対策の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高経年化技術評価と長期保守管理方針を確実に実施</li> <li>・40年を超えて運転する発電所について中間安全確認を実施</li> <li>・高経年化に関する安全研究を推進</li> </ul> </li> <li>○「もんじゅ」の安全確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国と事業者の安全対策を厳正に確認</li> </ul> </li> </ul>   |



# III 成長を産み出す

|                        |  |
|------------------------|--|
| <p>III-1<br/>産業新展開</p> | <p><b>◆新産業育成（イノベーション）と地場産業再生（リノベーション）による「産業新展開」</b></p> <p>経済のグローバル化に伴い、東アジアの国々は目覚ましい経済成長を遂げています。一方、日本社会においては、高齢化の進展に伴い消費スタイルが変わりつつあります。わが国が新たな成長を産み出していく鍵は、技術革新(人材育成)と企業誘致、多様なニーズに応える商品開発です。</p> <p>福井県が地域資源を最大限に活かし、技術革新と人材育成を進めることが、これから10年間のビジョンの目指すべき方向となります。地場産業・伝統産業の再構築を図るとともに、新たな産業への展開やアジア市場の販路開拓を進め、地域の強みや特色を活かした新たな「産業群」を創出します。</p> <p>産業を支えるのは「人材」です。これからの技術革新や新ビジネス創出を担う高度産業人材の確保と育成を図ります。また、有効求人倍率の高さや失業率の低さなど、全国トップクラスの雇用環境を維持・向上させ、「安心雇用ふくい」を実現します。</p> |
|------------------------|--|

| 戦略                       | 戦略の内容   | 主要プロジェクト   |
|--------------------------|---|--|
| 13<br>◆「これぞ福井」の技(わざ)進化戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県には、繊維、眼鏡、和紙、漆器などの地場産業で培った素材創生・加工技術、原子力発電関連技術、蓄電池関連技術など、「実は福井の技」と呼べる優れた技術や製品が数多く存在</li> <li>○ 本県の特徴である「エネルギー」や「健康長寿」、地域資源を活かした新ビジネスの創出により、新たな産業群を形成し、地域から本県の産業構成を革新することが重要（イノベーション）</li> <li>○ 繊維・眼鏡等の伝統産業は、中国の低価格製品との競争等により、出荷額が減少。貴重な福井の技術・人材を守り活かして、新たな分野・業種への展開や海外等への販路開拓を進め、地場産業の再生を推進（リノベーション）</li> <li>○ リノベーション、イノベーションをさらに進めるため、県内企業の努力に加え、地場産業の技術と関連性の高い企業の立地を促進（インバイト）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>新たな産業の育成（イノベーション）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の強みや特色を活かした「地域密着型関連産業群」を育成・創出（嶺南地域でのクリーンな電力を活用した電池産業やデータセンターの集積化をはじめ、福井・坂井地区、奥越地区、丹南地区ごとに地域特性を活かした産業振興策を展開）</li> <li>・ 地域の産業振興モデルとして、その手法をパッケージ化して海外に展開</li> <li>・ 新たな産業・ビジネスを創出するためのファンドを創設</li> </ul> </li> <li>○ <b>地場産業の再生（リノベーション）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統産業を活かした新たな福井ブランド商品の開発</li> <li>・ プロモーション組織の構築による新たな販路の開拓</li> </ul> </li> <li>○ <b>新たな企業の誘致（インバイト）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業立地のインセンティブとなる優遇措置を創設（電気料金割引制度の拡充など）</li> </ul> </li> </ul>   |
| 14<br>◆新しい雇用づくり戦略        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県は、企業規模は小さいが企業数は多く、人口当たり事業所数は全国一位、失業率や有効求人倍率は全国でもトップクラス</li> <li>○ 一方、大学進学時に若者が県外に流出し、戻ってこないという傾向も見られ、県内企業への優秀な人材確保が課題</li> <li>○ 今後さらに少子高齢化が進み、労働力人口の減少が見込まれる中、質の高い労働力、人材を確保することが、県内産業の活性化には不可欠であり、そのための新たな雇用対策が必要</li> <li>○ 製品開発や技術革新を担う専門的知識・技術を有する人材、医療・福祉など需要の増加が想定される分野の人材、農林水産業や伝統産業など後継者不足が問題となっている分野の人材など、分野別に人材確保策を展開</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>若者・女性・高齢者の就業支援強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターンシップ、企業体験などによる若者Uターン促進による人材の確保</li> <li>・ 女性・高齢者に対する、短時間勤務、在宅ワーク、企業内人材のスキルアップ、第二の就業機会の提供</li> </ul> </li> <li>○ <b>高度研究開発人材の確保・育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成長分野やグローバル化に対応できる高度研究人材の育成・確保に向け、官民の連携によるコンソーシアムを形成し、修学資金制度などを運用</li> </ul> </li> <li>○ <b>伝統産業・医療福祉・農林水産業の人材確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統産業分野へのインターンシップや産地での就業体験による他業種からの参入支援</li> <li>・ 医師・看護師等への再就業研修による復職支援、病院内保育所、短時間勤務の導入など、働きやすい環境整備</li> <li>・ 能力認定制度の導入等により介護職員の処遇改善を進め、介護人材の定着と新たな人材の参入を促進</li> <li>・ 就業相談窓口の機能充実や研修制度の拡充など、農林水産業への就業希望者が経営を開始するまでトータルにサポート</li> </ul> </li> </ul> |

|                              |   |
|------------------------------|---|
| <p>Ⅲ-2<br/>アグリ<br/>チャレンジ</p> | <p><b>◆果敢な挑戦により、農林水産業を「新成長産業」へ転換</b></p> <p>福井県の農業は、「コシヒカリ」をはじめとする水稻が中心であり、優良な農地を持ちながら農業生産額は全国でも最も低い水準にあります。わが国の食糧自給率が4割と低迷する中で、食へのこだわり、食品に対する安全性や安心を求める国民が増えつつあります。食を提供する農林水産業に対する国民的な関心は、かつてないほどに高まっています。</p> <p>こうした時流をとらえ、大都市圏に比較的近い地理的優位性を最大限に活かしながら、福井県の農林水産業の新しい活路を見つけ出していく必要があります。農林水産業を「新たな成長エンジン」と位置付けて、他の業種や産業との連携を強めて、より高い付加価値を創出し、農林水産業からの販売額「1000億円」を目指します。</p> |
|------------------------------|---|

| 戦略                  | 戦略の内容  | 主要プロジェクト  |
|---------------------|--|---|
| 15<br>◆チャレンジ農林水産業戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県の農林水産業の産出額は約600億円前後で推移。特に農業分野については、全国に比べて割合の少ない園芸の産出額をどのように伸ばしていくかが課題</li> <li>○ 県内の農村では農家人口の減少と農家の高齢化が進展、林業・漁業も同様の状況であり、生産活動の弱体化が懸念。後継者や担い手の確保が喫緊の課題</li> <li>○ 近年、園芸分野を中心に農業分野に企業が参入したり（坂井北部丘陵地）、生産から加工までの経営多角化、農林水産業の体験活動への参加者が増加するなど、企業や人が農林水産業の新たな価値に着目して集う動きが生まれている</li> <li>○ 農林水産業と他業種や産業との連携を強めて高い付加価値を創出するとともに、教育や福祉など他の分野とのつながりの中で潜在的な価値を顕在化させ、「人をつなげ、人を育む」という農林水産業の新たな価値の創造に挑戦</li> <li>○ 新たな価値の創造を通して成長産業として魅力を増した農林水産業への企業参入や新規就業などを支援するために、新たな仕組み（民間からの資金調達、企業とのネットワーク、支援のワンストップサービス化）づくりも推進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「<b>企業的農業</b>」と新たな農林水産業の展開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「坂井北部丘陵地」をモデルに、企業的農業を促進</li> <li>・ 農林水産業の現場や農山漁村とその風景などを、食・文化・歴史を学ぶ場として観光資源化</li> <li>・ 他の産業と連携したビジネスモデルの実現を支援</li> <li>・ 生産・加工・販売を一体的に行う農林水産業の6次産業化を支援</li> </ul> </li> <li>○ <b>農林水産物のカテゴリー別に「バラエティブランド」創造</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高品質、知名度、販売力の高い「ハイ・ブランド」育成</li> <li>・ 知名度の高い「セミ・ブランド」創造</li> <li>・ 少量多品目、規格外品の商品化による「ローカル・ブランド」創造</li> </ul> </li> <li>○ <b>農林水産業と他分野連携による新たな価値の創造</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊かな自然体験や農林漁業体験を中心とした教育旅行の推進</li> <li>・ 農林水産業チャレンジドハウス（農林水産業を通じた障がい者の就業訓練と雇用促進）</li> <li>・ 農林水産業による癒しの創造、ヒーリング機能の充実</li> <li>・ 園芸療法や障害者の就業を支援する人材育成を支援</li> </ul> </li> <li>○ 「<b>地産地消先進県ふくい</b>」の実現 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おいしくて顔の見える地元の農林水産物を家庭・学校・企業等で積極的に地消</li> </ul> </li> </ul> |

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <p>Ⅲ-3<br/>アジア・ターゲット</p> | <p><b>◆ネットワーク強化による「アジア共生成長戦略」の実現</b></p> <p>経済のグローバル化に伴い、東アジアの国々は目覚ましい経済成長を遂げています。本県経済の発展の鍵は、豊かな中間層が急速に増えていくアジアの国々の外需を積極的に取り込んでいくことです。</p> <p>アジアから近いという福井の地勢を活かし、県、産業支援団体、現地進出企業などがそれぞれ役割を発揮しながら県内企業のアジア市場への進出を支援するとともに、アジア市場の購買力を取り込んで県内消費の拡大につなげます。アジアの時代が続く中で、アジアの玄関口として敦賀港の貿易港としての役割はますます大事になります。物流拠点として敦賀港のさらなる機能強化を図ります。</p> |
|--------------------------|---|

| 戦略                 | 戦略の内容   | 主要プロジェクト   |
|--------------------|---|--|
| 16<br>◆アジアへの積極展開戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在、アジアで生産を行っている県内企業は14%、取引を行なっている企業は28%。海外進出に際しての主な課題としては、情報不足や代金回収などの不安、海外のパートナー不在などが挙げられる。</li> <li>○ 県・産業支援団体・現地進出企業がそれぞれ役割を担い、福井の企業の海外展開を支援する商社機能を確立することにより、海外市場未経験の中小企業でもアジア市場にチャレンジできる体制を整備する必要</li> <li>○ 日本海を内海として中国などと向き合う地勢を活かし、敦賀港を拠点として環日本海物流ネットワークを構築することが重要。中国をはじめ、韓国やロシアと広角的な航路を実現</li> <li>○ 生産拠点としてだけでなく、消費市場としても急速に拡大しているアジア市場の購買力を取り込み、県内消費を拡大</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>アジア市場開拓に向けた商社機能の構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内企業の東アジアでの販路開拓支援のため、進出希望企業に対するエンカレッジ機能と商社機能を併せ持つ県内企業の進出拠点を官民が連携して整備</li> <li>・ 県内企業が進出している中国華東地区から中国東北部、極東ロシア、東南アジアなどへ進出拠点を多角化</li> <li>・ 福井人による情報ネットワークを構築し、新規進出企業相互の支援体制を整備</li> </ul> </li> <li>○ <b>環日本海物流の中心となる港湾機能の拡充</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敦賀港の日本海側拠点港化の実現とそれにふさわしい集荷システムの構築（中京、関西圏からの集荷に加え、JRとの連携による関東圏からの集荷を強化）</li> <li>・ 開発が進む中国東北部地区等との経済交流促進による上海航路、大連航路の就航</li> <li>・ 国際RORO船や国際コンテナ船など多様な航路の開設や、国際ターミナル会社を中心とする官民一体となったポートセールスの展開</li> <li>・ 福井港については、広い埠頭用地を活用した物資の集積基地化、テクノポート福井への企業誘致</li> </ul> </li> <li>○ <b>アジア市場からの購買力の取り込み</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アジアからの観光客の誘致強化</li> <li>・ アジア観光客向けのコンシェルジュ機能が強化された商業エリアの構築（銀聯カードの普及、アジア観光客向けマップの提供など販売力を強化）</li> </ul> </li> </ul> |



# IV 環境を創る

**◆皆で守り育てる美しく豊かなふくいの「環境・景観」**

環境は私たちの生活を取り巻き、その土台となるものです。これからの10年を考えると、課題は大きく3つあると考えられます。ここでは、自然環境と景観という2つの重要な課題を取り上げます。

**IV-1 環境・景観を育む**

一つは、自然環境の保護と回復です。県民アンケートに示された、「福井の良いところ」でも「空気や水がきれいで、緑豊かな自然環境」を選んだ方が最も多く、全体の7割を超えました。ふくいの豊かな自然環境は、将来にわたって価値を生み出す大切な「自然資本」です。美しい自然や生物の多様性を守り育てることは、子どもたちのふるさとへの思いを育む上でも、県民の癒しや生きがいを生み出す上でも、非常に重要です。

次にまちなみ景観を良いものにしていくことです。江戸末期、明治期に日本を訪れた外国人が「おとぎの国」のようだ賞賛した日本のまちなみは、高度成長期の開発によって、大きく損なわれました。それから半世紀を経て、今後、橋や公共建築物など多くの社会資本の老朽化が進み、修繕や更新が増えます。県民や市町の意見を集約して、「景観創造型まちづくり」を進めます。

| 戦略                    | 戦略の内容   | 主要プロジェクト  |
|-----------------------|---|---|
| 17<br>◆「グリーン・アクション」戦略 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県の良いところとして、「空気や水がきれい、緑豊かな自然環境」をあげる県民が一番多く、福井の財産である美しい自然環境を守り、育てていくことが重要</li> <li>○ 一方で、農山村地域住民の高齢化や後継者不足などで里地里山が管理されずに荒廃。外来種など人為的に持ち込まれた種による生態系の乱れや、鳥獣害被害の増加などの課題も</li> <li>○ 本県の身近で優れた里地里山の自然環境を保全するには、持続的な人の関わりが重要。環境を守り育てる県民運動をさらに拡充</li> <li>○ また、福井県の一人一日当たりのゴミ排出量は減少傾向にあるものの、福井県のリサイクル率は全国平均を下回る。大量消費型の社会経済システムによる廃棄物を大量に排出するライフスタイルから、良いものを大切に長く使うライフスタイルへ転換促進</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 未来に引き継ぐ福井の豊かな「自然資本」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の自主的な保全活動により、里地里山を維持保全し、「生き物サンクチュアリふくい」を実現</li> <li>・行政、住民、学校、研究者が協力し、ラムサール条約湿地の三方五湖、希少な水生・湿生動植物を育む中池見湿地などの「生物多様性」の保全・再生活動を拡充</li> <li>・コウノトリをふくいの生物多様性のシンボルとし、定着に向けた環境整備を促進するとともに、県民の自然再生活動を活性化</li> <li>・無農薬農法や「ふゆみずたんぼ」「水田魚道」「ビオトープ」など生態系に配慮した良好な生物生息環境をつくり、生産物をブランド化</li> </ul> </li> <li>○ 3R運動による「ごみ減量化」の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民・企業がものを大切にするという意識を持ち実践する3R（リデュース・リユース・リサイクル）運動を拡充</li> <li>・学校・家庭・地域など多様な場において、食べ残しを減らす「おいしいふくい食べきり運動」を定着</li> <li>・修理に関するイベントや古本市など「修理する文化」定着</li> <li>・食品廃棄物の堆肥化、堆肥を活用した農作物の生産など地域内で排出される廃棄物のリサイクルループの構築</li> </ul> </li> <li>○ 里地里山を守る鳥獣害対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しの良い山ぎわ整備や緩衝帯の設置など、有害鳥獣が出没しにくい環境づくり</li> <li>・捕獲対策や防除柵設置などと組み合わせ、総合的な鳥獣害対策を推進。安心して農林業を営める環境づくり</li> </ul> </li> </ul> |
| 18<br>◆景観バリューアップ戦略    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 美しい自然や、地域における人々の暮らしや風土によってかたちづけられた「ふくいの景観」は、貴重な「ふくいの財産」</li> <li>○ 県、市町、県民、事業者などが共働して、地域の自然や、歴史、文化などを背景としたふくいの景観の価値を認識し、景観を守り育てるとともに、新しく創り出していくことが必要</li> <li>○ 道路や河川など、公共施設は、地域の景観をかたちづくる重要な要素であり、地域の風土や風景と調和のとれた整備を推進</li> <li>○ 高度経済成長期に整備されたインフラが、今後更新時期に。これを統一的な景観調和を進めるための絶好の機会と捉えて、「景観調和型公共工事」を促進</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今ある良き景観のバリューアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくい百景に選ばれたエリアを「ふくい景観保全地区（仮称）」に、伝統的な民家が多く集まるエリアを「伝統的民家群保存活用推進地区」に位置付け</li> <li>・「ふくい景観保全地区」の保全活動など、景観を守り育てていく住民団体を育成</li> <li>・景観保全の機運が高まった地域で、国の「重要文化的景観」や「重要伝統的建造物群保存地区」選定を促進</li> </ul> </li> <li>○ 自然と調和した「景観調和型公共工事」の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模事業について、環境配慮型公共工事検討委員会で審査し、生物の生息環境や景観などに配慮した工事を実施</li> <li>・景観に配慮した社会資本の更新保全プランを策定し、景観配慮型のインフラ長持ち修繕工事（インフラのリ・デザイン）を実施</li> <li>・「カーナビ時代の景観づくり」として、公共施設への看板を半減</li> </ul> </li> <li>○ 景観づくりの推進組織（エンジン） <ul style="list-style-type: none"> <li>・統一的な景観づくりを進める推進機関として、「まちなみ総合景観づくり委員会」を設置</li> </ul> </li> </ul>  |

|   |  |
|---|--|
| <p><b>IV-2</b><br/><b>環境先端の<br/>基盤づくり</b></p> | <p><b>◆クリーンエネルギー活用による最先端の「低炭素社会」の実現</b></p> <p>環境で重要な課題の最後の一つは、地球環境保全です。グローバル化が進む中で、温暖化防止をはじめとした地球環境保全への具体的な行動を世界規模で加速する必要があります。</p> <p>福井県は原子力発電所14基が立地し、CO2を排出しないクリーンエネルギーを供給している日本屈指の環境貢献地域であり、原子力・エネルギー分野で最先端の研究開発・人材育成を進めています。こうした技術・人材の集積を活かし、「低炭素社会の実現」に向け、アジアをはじめとする世界に貢献できるポテンシャルがあります。これを世界レベルで発信し、環境・エネルギー分野での役割を果たしていきます。</p> <p>同時に、このクリーンエネルギーの活用などを通して技術や産業、生活レベルまでゼロエミッションを推し進め、低炭素化社会の実現を目指します。</p> |
|---|--|

| 戦略   | 戦略の内容   | 主要プロジェクト   |
|--|---|--|
| <p>19</p> <p><b>◆低炭素<br/>都市実現<br/>戦略</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福井県には14基の原子力発電所が稼働、日本最大の電力生産地。関西地域の消費電力の約半分を供給するなど、国のエネルギー政策に大きく貢献</li> <li>○ 平成17年に策定した「エネルギー研究開発拠点化計画」に基づき、国、電力事業者、若狭湾エネルギー研究センター、県内外企業等と共働で、蓄積された原子力・エネルギー技術の応用や産業化、人材育成を推進</li> <li>○ 今後、拠点化計画をさらに推進し、県内での大きな産業化に結びつけていく必要。また、身近な生活の中で住民がメリットを実感できるよう地域づくりに活かしていくことも重要</li> <li>○ APECエネルギー大臣会合における「福井宣言」を引き継ぎ、開催地福井として、「低炭素モデル都市」としての地球環境貢献など、新たな展開が必要</li> <li>○ 拠点化計画の目指す従来の「産業化」等から、さらに「生活分野」へ事業を展開し、クリーンエネルギーを核とした最先端の住み良いまちづくりを实践</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『Eco-Energy-Corridor (エコ・エネルギー回廊)』プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー研究開発拠点化計画による研究開発・産業化の成果を活用した産業や、データセンターなど電力需要の大きい産業の集積</li> <li>・自治体、民間企業、研究機関、大学等で構成する協議会を設置し、低炭素化社会モデルの形成に向けた推進計画を策定</li> <li>・産学官による事業を集中実施し、低炭素化された住み良いまちづくり <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートメーター、スマートグリッドの導入</li> <li>電気自動車・プラグインハイブリッド車を普及</li> <li>公民館等の公的施設へ新エネルギー設備を導入</li> <li>街灯や公園内照明のLED化</li> <li>ヒートポンプ、LED、野菜工場による最先端農業 等</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 「ゼロカーボンライフ」の普及 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化ストップ県民運動「LOVE・アース・ふくい」の強化</li> <li>・福井型カーボンオフセットを活用したクリーンエネルギーへの転換</li> <li>・子どもたちへの環境・エネルギー教育の充実</li> </ul> </li> <li>○ 「低炭素社会」実現への「脱マイカー」運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一世帯当たりの自動車保有台数が全国一多い福井県の車依存社会を転換する「ストップ乗りすぎ」運動</li> <li>・環境にも健康にもやさしい自転車への切り替え</li> </ul> </li> </ul> |



# V 交流を広げる

## V-1 「希望のまち福井」創造

### ◆新たな絆・交流を生む「つながりのまち」の創造

このビジョンの目的は、県民が10年後の福井に希望を持つことのできる「新しいふるさと」を創り出すことです。希望には二つのものがあると考えます。

一つは、県民自らが家族や住みなれた地域、市町のつながりを超え、外に向かって開かれた新しいつながりを求めることです。私たちが目指す「新しいふるさと」づくりは、地域が地域の外に向かって開かれ、様々な人々を受け入れることで新たな活力を生み出すことを目指す点で、これまで行われてきたふるさと回帰の動きとは異なるものです。そのための住民や地域、NPOをはじめとした法人、市町などの活動を支援し、振興するため、多様な仕組みづくりを進めます。

二つ目は、今よりも未来が良くなるという目標に向かって行動すること、各地域、市町で、次の世代のために地域を良くしようとする行動を起こすことが求められています。

これらの動きを加速させることで、都市からの定住・帰住者の受入れ基盤を整備するとともに、年間2千人といわれる若者の都市への流出を食い止めます。

また、北陸新幹線の県内延伸を見据え、新たな交流の起点となる「県都まちづくり」を進める必要があります。長期的な視点で公共施設の再配置も検討し、福井の豊かな「文化」、「歴史」、「水と緑」を最大限に活かした「交流のまち」を創造します。

| 戦略 | 戦略の内容  | 主要プロジェクト   |
|----|--|--|
| 20 | <p>◆「定住満足度日本一」実現戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地方から都市への人口の流出が続く一方、定年後、地方で暮らすことを望む人が増加。また、従来のIターン、Uターンに加え、都市の本居はそのままに、地方に兼居する「二地域居住」等を希望する人が増加</li> <li>○ 人々が「自分たちのふるさと」を振り返り、目を向けることにより、ふるさとの活力を高め、日本全体を底上げする。こうした地域とのつながり、人とのつながりを求める「ふるさと回帰」の動きが拡大</li> <li>○ 外に開かれ他の地域の人々と結びつく「新しいふるさと」づくりのため、ふるさと福井とふくいにゆかりのある人を「ゆるやかにつなぐ」新しいシステムを創設</li> <li>○ 地域資源を活用した「ふるさと起業」や「二地域居住」など、都市住民に新たな生き方を提案し、福井での豊かな暮らしと活躍の場を提供。都市に集中する人口の「地方分散」を促進</li> </ul>                         | <p>○「福井ファン」によるネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を通じ、苗木を植栽する「ふるさとの樹」オーナーを募集。成育状況をHP等で報告</li> <li>・ふるさと納税寄付金を活用し、ふるさと学生サポーターの育成とUターン就職を促進</li> </ul> <p>○福井を「ふるさと起業」のメッカに</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Uターン者の受け皿として、地域における資源を活用したふるさとビジネスの展開</li> <li>・地域課題（買物難民、有害鳥獣等）の解決ビジネス促進</li> </ul> <p>○帰住者に「選ばれる田舎」づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を挙げて帰住者の受入れを行う「選ばれる田舎」モデル地区を設定し、優先的に環境整備</li> <li>・舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道開通にあわせ、二地域居住を積極的にPR</li> <li>・県外移住者や福井応援者を含めた「ふるさと県民」を『101万人』に</li> </ul>   |
| 21 | <p>◆「つながりのまち」創出戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北陸新幹線県内延伸により、JR福井駅を結節点とする新たな人の流れが生まれることから、県都のにぎわい・つながりの拠点づくりを強化する必要</li> <li>○ 福井駅前周辺には、養浩館、福井城址、柴田神社、足羽川、足羽山といった歴史文化、水や緑の憩いを感じることのできるスポットがあり、県民が徒歩や自転車で気軽に回れ、観光客にも楽しんでもらえるよう、さらに魅力を高める必要</li> <li>○ 県都の福井駅前周辺を、「緑と歴史文化の香り」あふれる空間にレベルアップし、県民が集い、憩いとやすらぎを感じるエリアを創出</li> <li>○ 今後の高齢社会にも対応したまちづくりにより、親子連れからお年寄りまで様々な世代の県民が、安心して活動・交流できる空間を創出</li> <li>○ また、ICTのさらなる利活用により、いつでも、どこでも、だれとでもつながる「人にやさしいネットワーク・ふくい」を推進</li> </ul> | <p>○県都に「水と緑ゆたかな歴史ゾーン」を創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養浩館・福井城址・柴田神社・足羽川・足羽山等をつなぐエリアを「水と緑ゆたかな歴史ゾーン」として整備</li> <li>芝生や街路樹等で「緑の空間」を拡充</li> <li>「石垣・水路」をポイントに、施設、史跡の整備促進</li> <li>駅前周辺の自転車道ネットワーク化</li> <li>親水空間として足羽川を利活用</li> <li>城址、足羽川、足羽山等のライトアップ</li> </ul> <p>○福井駅前を人がにぎわう「移動快適空間」に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前西口広場へバス・電車の乗入れにより、公共交通機関の乗り換え利便性向上</li> <li>・駅前歩行空間を、雨や雪をしのいで気楽に歩ける「傘いらず空間」に。駅前広場・周辺歩道の融雪範囲拡大で、冬にも強く</li> <li>・福井駅につながる道路空間を快適シェアリング（車道や歩道等のレーンを再配分）</li> </ul> <p>○新たな「地域交通ネットワーク」の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車に頼らなくても日常生活に必要な場所に移動できる「ノーマイカー交通システム」を実現</li> <li>・郊外と中心市街地を結ぶ鉄道やバスに加え、コミュニティバス・ボランティアバス・買物バス・デマンドバスなど、地域を支える新たな交通ネットワークづくり</li> </ul> <p>○人と地域のきずなを創るICT</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドコンピューティング等の新しい技術を活用し、地域に根ざした新たな情報コミュニティ社会を実現</li> <li>・いつでも、どこでも、だれにでもを合言葉に、全ての人々がICTを利活用できる環境を整備</li> <li>・ICTの利活用により、新たなネットワーク社会を支える人材を育成</li> </ul> |

|    |             |   |   |
|----|-------------|---|---|
| 22 | ◆ふくい文化の創造戦略 | <p>○ 福井県は、古来都に近く、歴史や風土の中で育まれた有形・無形の文化や地域資源を数多く有している</p> <p>○ 文化は暮らしの中で楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらす、人生を豊かにするもの。優れた文化・芸術を楽しむことは、「生活の質」向上に寄与</p> <p>○ ふるさと福井に伝わる身近な文化を見つめなおし、後世に伝えていくこと、さまざまな文化・芸術に触れ、新たな文化を発信していくことにより、希望を未来につなぎ、「文化に親しむまち福井」を創造</p> | <p>○「楽しみ」「参加する」文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成ふくい風土記」を全県展開</li> <li>・福井ふるさと文化体験ウィークの実施</li> <li>・美術館・博物館同士のネットワークの強化と住民参加型運営</li> <li>・誰もが文化に親しむ「一人一文化」運動の展開</li> <li>・文化施設の学芸員や文化団体による「ふくい文化塾」を県内各地で開催</li> </ul> <p>○福井文化を支える人育て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手活動家への支援充実や外部の文化人・芸術家との交流強化による文化団体・活動家の活力向上</li> <li>・質の高い次世代県民オーケストラの育成</li> <li>・専門家によるレベルの高い指導や発表の場提供などによる若手芸術家の育成強化</li> </ul> |
|----|-------------|---|---|

|                   |  |
|-------------------|--|
| V-2<br>交流ネットワーク拡大 | <p><b>◆新ネットワークを活用した「ふくいブランド」の発信と交流拡大</b></p> <p>北陸新幹線や舞鶴若狭自動車道、中部縦貫自動車道等の整備の進展を契機に、多くの方々が福井を訪れることが見込めます。このような交流人口の増加も外に向かって開かれた新しいつながりを強める重要な要素です。このチャンスを逃さず、福井のブランドに磨きをかけ、観光をはじめとした交流人口の増加を目指します。</p> <p>また、これまで都市圏に集中していた人やモノ、金の動きを変え、地方分権時代にふさわしい都市圏を経由しない形での「地方間の流通・ビジネスモデル」を創出し、地方が連携して、大都市圏から地方への人や企業の分散を促進する独自施策を展開し、福井県の活力を向上させます。</p> |
|-------------------|--|

| 戦略                  | 戦略の内容   | 主要プロジェクト   |
|---------------------|---|--|
| 23<br>◆「ふくい周流」展開戦略  | <p>○ 本県への観光入込数は増加傾向にあるが、日帰り客の増加がその要因で、宿泊者数については減少傾向</p> <p>○ 発地別の県外観光客数では、関西圏、中京圏からの観光客は特に増加傾向が強く、数も多いため、有力な誘客ターゲット</p> <p>○ 舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道の整備が進展することにより、これらの圏域の観光客に対し、本県をより一層、目的地・滞在地として売り込むことが可能に</p> <p>○ 実際に旅行に来た人に対する調査では、楽しめるスポットや施設、地元の人へのホスピタリティの面で、本県に対する評価は高くないため、「旅のハイライトづくり」や「もてなし力の向上」が必要</p> <p>○ 交通体系の整備を見据え、嶺南と嶺北のそれぞれにおいてその地域の資源を活かしたツーリズムを創出するとともに、本県観光を施設面・もてなし面の両面から磨き上げることで、ふくい観光のダイナミズム（うねり）を起こす</p> | <p>○「若狭湾岸ハイウェイ」観光プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“とれたて味わい”メニューの開発と提供（新鮮な魚などを使った「おいしい」料理を若狭路全体で提供）</li> <li>・小浜西組の早期整備による強力な観光資源化</li> <li>・物流港に加え、観光港としての位置づけによる敦賀港のステージアップ</li> <li>・若狭湾全体に「海に沈む夕陽」の見えるスポット整備</li> <li>・歴史的観光素材を活用した観光誘客</li> <li>・若狭湾岸ハイウェイクラブ（WHC）の創設（県民参加型地域運動の推進母体）</li> </ul> <p>○ダイナソーバレー「恐竜王国ふくい」の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井で最も訴求力のある「恐竜」ブランドの魅力をさらに向上</li> <li>・発掘現場の野外博物館化、アクセス道への恐竜像設置など、恐竜博物館周辺における見どころづくり</li> </ul> <p>○福井ならではのニューツーリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「合宿のメッカ・ふくい」海、山、温泉、関西・中京からの「安・近」を活かして学生合宿を誘致</li> <li>・「福井で元気ツアー」「健康長寿」ブランドをフルに活用した「ヘルス・ツーリズム」創出</li> <li>・「京福誘客」特に外国人客を中心に、京都から、福井の海、山、温泉を活かして誘客</li> </ul> <p>○観光地のステージアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと福井の「もてなしの花」咲かせようキャンペーン（県民のもてなしの心を醸成するムーブメントを起こす）</li> <li>・「ふくいが旅のハイライト」拠点となる観光地への重点投資</li> </ul> |
| 24<br>◆「新ネットワーク外」戦略 | <p>○ 地方分権時代にふさわしい、東京を経由しない形での新しい自治体モデルをつくる必要</p> <p>○ これまでの隣県交流や地域ブロック単位の地域交流を超え、離れた地方と地方が相互にネットワークを築く「新しい連携の形」（ローカル・アンド・ローカル）を創出</p> <p>○ 地方間の流通ビジネスモデルを生み出すとともに、都市部から人口や学生、企業の福井への誘致を促進。大都市圏には、人口・産業・資金が集中し、さまざまなリスクも集積。大都市圏に集中する資源の「地方分散」を促進し、日本全体の活力を創造</p>   | <p>○「Local and Local」プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい自治体ネットワーク等を拡大することにより「活動量を2倍に」</li> <li>・地方に立地する中小企業、研究機関同士の共同研究や新製品開発プロジェクトを推進</li> <li>・独自の優遇制度を設けて、大企業の中核管理機能の一部を福井県に誘致するなど、新しい形の企業誘致</li> <li>・「ふるさと納税」や地方での自然環境保全活動など、都市住民の「ふるさと」貢献活動を見える化</li> </ul>   |